

# 協会を支える分科会活動

分科会運営委員会 委員長 奥山 喜久夫

## 1. はじめに

分科会活動は POWTEX® (国際粉体工業展) と並んで、(一社)日本粉体工業技術協会の中心的活動である。2024年度は粉体ハンドリング分科会と輸送分科会の統合により、単位操作型と目的指向型(プロジェクト型)を合わせた20分科会体制となった。分科会運営委員会は、これらの分科会の全体体制を検討するとともに、分科会活動を活性化するための支援をしている。委員の構成は、委員長：奥山喜久夫、副委員長：鈴木康夫、松坂修二、委員：秋山聡、アドバイザー：山田幸良の5名である(敬称略)。ここでは主として、2024年度の分科会活動の概要および分科会運営委員会の活動とともに、2025年度の分科会運営委員会活動の方向性を述べる。

## 2. 2024年度の分科会活動の概要および運営委員会の活動

### 2-1 分科会活動全般の状況

各分科会本会合(見学会、講演会)の多くは、現地開催が主体となり、講演会では Web 会議を併用したハイブリッド開催による便宜を図ることが定着した。また、現地開催の増加に伴い交流会が数多く開催されるようになり、会員同士の交流などが盛んになってきた。ほぼすべての分科会で2回以上の本会合が開催されており、2024年度開催の本会合数は延べ51回、参加者総数は大きく増加して約2,400名に達し、新型コロナウイルス感染症流行前の活発な水準に戻った。

### 2-2 拡大分科会運営委員会および分科会連絡会議の運営

2024年8月に京都で開催された拡大分科会運営委員会では、すべての分科会から2024年度の本会合の開催など活動状況の報告、事業計画の見直し説明された。粒子加工技術分科会、微粒子ナノテクノロジー分科会、粉体シミュレーション技術

利用分科会より、海外で開催された分科会の開催状況が紹介された。また、分科会運営相談会を、分級ふるい分け分科会、粉体ハンドリング分科会、粒子積層技術分科会を対象に実施し、分科会の活動状況および課題について、各分科会の主要メンバーと分科会運営委員会の間で意見交換を行い、幹事の増員など、分科会の体制の改善について議論を行った。

2025年1月に名古屋で開催された分科会連絡会議では、各分科会の2024年度の活動状況、および2025年度の事業計画と運営方針・課題が報告され、情報交換会も開催された(写真-1)。また、分科会活動に貢献した個人に対し分科会功労賞および分科会技術賞、委員会・部門活動に貢献した個人に対し委員会・部門功労賞が、表-1、表-2および表-3の方々に授与された(写真-2)。なお、分科会技術賞は、本年度より新設され、分科会の活動に貢献したコーディネータ、副コーディネータに対する賞である。



写真-1 分科会連絡会議の様子

表-1 2024年度 第20回分科会功労賞受賞者一覧

No.	受賞者名	所属先	分科会
1	浅見圭一	日本スピンドル製造(株)	湿式プロセス
2	北田正人	関西オートメーション(株)	集じん
3	木村正人	(株)タナベ	電池製造技術
4	佐藤浩二	マイクロトラック・ベル(株)	計装測定
5	直原健司	(株)日清製粉グループ本社	分級ふるい分け
6	島田英明	(株)ダルトン	混合・成形
7	丹野賢二	(一財)電力中央研究所	粉体シミュレーション技術利用

表-2 2024年度 第1回分科会技術賞受賞者一覧

No	氏名	所属先	分科会
1	岩田政司	大阪公立大学名誉教授	湿式プロセス
2	幡野博之	中央大学	環境エネルギー・流動化

表-3 2024年度 第11回委員会・部門功労賞受賞者一覧

No	受賞者名	所属先	委員会・部門
1	嘉村徹也	日清エンジニアリング(株)	総務
2	田辺大二	(株)タナベ	海外交流
3	真杉隆志	(株)大川原製作所	「粉体技術」編集



写真-2 分科会功労賞を受賞された方々

### 2-3 分科会の教育部門や POWTEX®2024 (国際粉体工業展東京) での活動

粉体技術者養成講座は、教育部門主催と分科会主催で開催されているが、教育部門主催では、「成形」(混合・成形分科会)、「乾燥」(乾燥分科会)、「粉碎」(粉碎分科会)、「粒子加工」(粒子加工技術分科会)、「集じん」(集じん分科会)、「分級」(分級ふるい分け分科会)、「ろ過」(湿式プロセス分科会)の7講座が開催され、分科会主催では、「計測・測定」を計装測定分科会が開催した。一方、粉体技術専門講座は2024年度開催がなかった。

また、POWTEX®2024 (国際粉体工業展東京)の併催行事において、粉体ハンドリング分科会、乾燥分科会、計装測定分科会が粉体機器ガイダンスを実施した。粉体シミュレーション技術利用分科会が、PX フォーラムおよび出展社プレゼンテーションを実施した。

## 3. 2024年度の分科会運営委員会活動の方向性

### ①分科会の体制・組織の強化

分科会の運営や正副コーディネータ・正副代表幹事・幹事などの体制の改善が必要な場合は、分科会運営相談会などを通して各分科会の方々と協力して組織および運営の充実を図る。将来必要と

なる粉体技術などについて議論し、必要に応じて新しい分科会の立ち上げとともに、既存分科会の統合などについて議論する。分科会のロードマップは、分科会で毎年アップデートし、委員会で取り纏める。

### ②活発な分科会活動と開催報告

分科会本会合は原則年2回以上の開催をお願いしたい。また、非会員参加者には協会への入会勧誘をお願いしたい。分科会開催は現地開催を主体とし、分科会開催後の交流会も開催して会員同士の交流とともに新規会員や幹事候補の獲得につなげてほしい。海外で開催した分科会については、拡大分科会運営委員会や分科会連絡会議での報告を行っていただき情報共有を図る。

### ③粉体技術者養成講座の開催と粉体技術専門講座の着実な実施

粉体技術者養成講座は、分科会が関連する基礎的な粉体技術を技術者に伝承することを目的としており、引き続き教育部門主催または分科会開催としていただく。粉体技術専門講座は、分科会活動で得た最新の技術的知見などを集約し広める場である。数年に一度程度は粉体技術専門講座を開催していただきたい。

### ④新入会員のフォロー実施

新入会員が希望する分科会を登録した場合、該当する分科会では、分科会本会合への招待とともに、講演の講師依頼、新入会員企業製品の紹介などにより、新入会員のフォローをお願いしたい。

## 4. おわりに

分科会運営委員会は、今後とも20分科会体制の全体的な検討を行い、協会の中心的活動として将来に向かって順調に発展するように議論を進めたいと考えている。

また、昨今多くの企業がDX技術(AI、IoTなど)の導入、利用に関心を持っているので、分科会本会合を通して、会員企業の粉体技術へのDX技術の導入を促進するようになりたいと考えている。

おくやま きくお  
奥山 喜久夫  
広島大学名誉教授

E-mail: okuyama@hiroshima-u.ac.jp